# Press release

Stuttgart/Tokyo, November 27, 2026

## MAHLE、駐車から充電までを自動化する EV 向け自動充電システムを開発

- MAHLE の「Park & Charge」は、自動駐車と自動ワイヤレス充電を組み合わせたソリューション
- 個人ユーザーから商用ユーザーまで幅広く活用可能
- ドイツ・シュトゥットガルトに新設した MAHLE のシステムテストベンチが、次世代ワイヤレス充電システムの量産開発を支援
- BMW グループと共同でワイヤレス充電技術の評価を実施

**電気自動車（EV）の充電スペースを探したり、充電ケーブルを接続したりする手間を省きたいユーザーに向けて、MAHLE（マーレ）は新たなソリューションを提供します。自動車部品サプライヤー大手 MAHLE（本社：ドイツ・シュトゥットガルト）は、EV 向けワイヤレス充電技術をさらに進化させ、自動駐車と自動充電を組み合わせた新たな実証システム「Park & Charge」の自動車メーカー向け提供を開始しました。この技術に対応した充電インフラが整備されれば、将来的には一般ユーザーも手軽で快適な充電サービスを利用できるようになります。また、レンタカー事業者や物流企業、配送事業者などのフリート運営会社にとっては、EV の充電プロセスを自動化する新たな選択肢となります。MAHLE は、このワイヤレス充電技術の試験・検証を目的として、将来の電磁誘導充電システムにも対応可能な最先端のワイヤレス充電システムテストベンチをシュトゥットガルトに新設しました。さらに、BMW グループと連携し、ワイヤレス充電技術の評価を進めています。**

「ワイヤレス充電は、日常生活における電動モビリティの利用をより身近で快適なものにする可能性を秘めています。普及に向けた重要な要素は、高い効率性、優れた利便性、充電プロセスの自動化、そして既存の車両やインフラへのシームレスな統合です」と、MAHLE のコーポレート・リサーチ＆先行開発担当バイスプレジデントである Marco Warth は述べています。「『Park & Charge』システムにより、私たちは自動充電の実現に向けた次の一歩を踏み出します。このシス

テムは、ユーザーの利便性を向上させるだけでなく、フリート事業者による自動充電プロセスの自動化を可能にする基盤となるものです」

MAHLE の新システムは、追加のセンサーを必要とせず、車載カメラと AI ベースのアルゴリズムを用いて、充電設備を備えた適切な駐車スペースを認識します。また、DIPS（差動誘導位置決めシステム）により、地面に設置された充電パッド上への高精度な車両位置決めを実現します。車両の駐車が完了すると、自動的に電力伝送が開始され、完全非接触で充電が行われます。

DIPS は、「Park & Charge」システムにおける高精度な位置決めを支える中核技術です。2 年前に、SAE インターナショナルによりグローバル業界標準として認定されました。「Park & Charge」システムは最大 11kW の非接触充電に対応し、実際の車両条件下で 92%を超える充電効率を実現しています。これにより、MAHLE のワイヤレス充電技術は、従来の有線充電とほぼ同等の効率性を達成しています。MAHLE は現在、BMW グループと共同で「BMW iX3」を用いた評価を進めており、この中核技術を実際の車両要件に照らして検証しています。

ワイヤレス充電技術のさらなる開発と検証に向けて、MAHLE はシュトゥットガルトにある旧内燃機関開発用試験施設を、高電圧および e モビリティ向けの施設へと転用しました。「内燃機関の試験設備として使用されていた施設に、この最先端のシステムテストベンチを導入することで、私たちは変革を目に見える形で実現しています。開発、ソフトウェアエンジニアリング、検証、保守を緊密に連携させることで、システムに関する知見から最終製品に至るまで、単一のチームに専門知識を集約し、エンドツーエンドのソリューションを提供します」と、Marco Warth は述べています。

この最新鋭の施設では、管理された環境条件下で、非接触電力伝送の実使用環境を想定した試験を実施しています。また、車両と地上側パッドとの間の空間（エアギャップ）における異物検知や、システムから発生する漏洩磁界の測定など、充電システムの安全機能の検証も可能です。

BMW の次世代車両プラットフォーム「ノイエ・クラッセ（Neue Klasse）」を含むさまざまな車両アーキテクチャを柔軟に再現することで、MAHLE は開発の初期段階から、車両側コイルのフロントエンドへの統合や、シールドおよび安全コンセプトの検証を行うことができます。さらに、将来の技術進化に対応するため、この施設は最大 30kW の充電容量に対応できるよう設計されています。

MAHLE のワイヤレス充電技術のもう一つの特長は、双方向充電に対応していることです。これにより、EV は電力網から電力を受けるだけでなく、必要に応じて蓄電した電力を電力網へ供給することも可能になります。これは、将来のエネルギーシステムの安定化にも貢献します。

インテリジェントな充電ソリューションの開発は、電気モーターと並び、MAHLE の電動化戦略における重点分野の一つです。e モビリティ分野における開発・検証体制を強化することで、MAHLE は従来のパワートレイン専門メーカーから、将来の持続可能なモビリティソリューションを支えるテクノロジーパートナーへの変革を加速させています。

報道関係者の皆さまへ：本プレスリリースおよび関連画像は「MAHLE Newsroom」（https://newsroom.mahle.com/press/en/. ）にてご覧いただけます。

画像の著作権：MAHLE GmbH




SAE インターナショナル認定のグローバル業界標準、MAHLE の位置決めシステム DIPS



ボタンひとつで駐車から充電まで自動化する「Park & Charge」



自動駐車により、ドライバーの利便性が向上



MAHLE の電磁誘導充電テストベンチ（シュトゥットガルト）を用いたワイヤレス充電システムの試験・検証



異物を模した手形状のダミーによる充電システムの安全機能試験



Marco Warth
MAHLE コーポレート・リサーチ＆先行開発担当バイスプレジデント

**Contact persons for MAHLE communications in Japan:**

藤川　祐子
広報部　シニアマネージャー
Phone: 050-3363-0290
E-mail: yuko.fujikawa@mahle.com

徳永　竜也
広報部
Phone: 050-3363-0290
E-mail: tatsuya.tokunaga@mahle.com

---

**MAHLE について （本社：ドイツ／日本支社：東京都豊島区）**

MAHLE（マーレ）は、今日のグローバルな自動車業界において、乗用車と商用車両分野の開発パートナーおよびサプライヤーです。 1920 年に設立されたマーレグループは、電動化と熱管理の戦略的分野に焦点を当て、将来の「Climate Neutral」なモビリティの実現に取り組んでいます。また、燃料電池や水素などの再生可能な燃料で稼働するクリーンな燃焼エンジンなど、炭素排出量をさらに高効率に削減するための技術にも焦点を当てています。

現在、世界中の 2 台に 1 台がマーレのコンポーネントを搭載しています。マーレは世界中約 64,000 名の従業員を 127 の生産拠点や 11 のテクノロジーセンターに配置し、28 か国に拠点を置いています。また、2025 年には約 113 億ユーロの売上を計上しました。

日本においてマーレは、幅広い専門知識を活用しながら今日まで 50 年以上事業を継続して参りました。またアジア太平洋地域の本社機能を担うことで、日系大手自動車メーカーの国内外すべてのビジネスをサポートしています。現在、日本のマーレグループは国内 17 拠点に約 2,200 名の従業員を擁しています。

マーレジャパン公式サイト： https://www.jp.mahle.com/ja/

#weshapefuturemobility